

【法人の概要】

代表者名	大澤 英二		所管部(局)課	企画県民部生涯学習文化課		
所在地	甲府市朝氣1-2-2		電話番号	055-235-4171		
ホームページURL	http://www.yamanashi-bunka.or.jp		E-mail アドレス	info-bun@yamanashi-bunka.or.jp		
資本金(基本財産)	15,000	千円	設立年月日	平成11年4月1日		
主な出資者	出資順位	出資者名		出資額		出資比率
	1	山梨県		15,000	千円	100.0 %
	2				千円	0.0 %
	3				千円	0.0 %
	4				千円	0.0 %
	5				千円	0.0 %
	6				千円	0.0 %
	7				千円	0.0 %
	8				千円	0.0 %
	9				千円	0.0 %
	10				千円	0.0 %
	その他	団体(者)			千円	0.0 %
設立目的 概況 経緯 概況等	設立目的:個性あふれる文化の創造と生涯学習社会を構築するための環境や人づくりを支援し、もって、潤いのある県民生活の実現に寄与する。 概況:文化の香り高い山梨の実現に向け、県民の自発的な芸術文化、生涯学習を支援し、生涯学習を基盤とした生涯設計、社会生活の創造、地域文化の振興を図るとともに、地域社会の活性化を担う人材の育成に資するための事業を実施している。 指定管理者制度を導入した山梨県立県民文化ホール(平成18年度から3年間)、山梨県県民会館(平成18年度から25年度まで)、甲斐市双葉ふれあい文化館(平成20年度から22年度まで)及び山梨県立男女共同参画推進センター(平成21年度から25年度まで)の管理運営。また、生涯学習推進センターについては平成11年度から県から業務委託を受け、管理運営と県民の生涯学習活動の支援を行っている					

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		H19年度	H20年度	H21年度
事業1 男女共同参画推進事業	男女共同参画社会の実現に向けて各種講座を開催し普及啓発を図る。男女共同学講座等の開催。また、女性の一般的な問題悩みに対して電話及び面接による女性総合相談を行っている			139,601
事業2 芸術文化振興事業	甲斐市双葉ふれあい文化館において芸術観賞事業や市民芸術文化活動の支援等を行っている		52,452	55,094
事業3 生涯学習推進事業	学習情報の収集・提供、まなびネット運営、移動学習相談事業、山梨学講座等の開催ほか	50,416	51,265	46,522

【組織】

年度	平成20年度					平成21年度					平成22年度				
	職 員	プロ パー 職員 兼務	派遣 職員 兼務	県 O B	その他	職 員	プロ パー 職員 兼務	派遣 職員 兼務	県 O B	その他	職 員	プロ パー 職員 兼務	派遣 職員 兼務	県 O B	その他
4月1日現在の人員															
役員	理事(常勤)	1			1	1	1				1	1			
	理事(非常勤)	9		1		8	10		2	8	10		2	8	
	監事(常勤)	0				0	0			0	0				
	監事(非常勤)	2		1		1	2		1	1	2		1	1	
	評議員	11		2		9	11		2	9	11		2	9	
計	23	0	4	1	18	24	1	5	0	18	24	1	5	0	18
職員	管理職	3	3			5	5			5	5				
	一般職員	19	19			11	11			10	10				
	臨時職員	4	4			3	3			5	5				
	非常勤職員	1	1			12	11		1	11	10		1	0	
計	27	27	0	0	0	31	30	0	1	0	31	30	0	1	0
プロパー職員の年齢構成 (H23. 4. 1現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計					平均年齢	平均年収	
	男性				7	6	1	14	役員 常勤	※	※	(千円)	※		
	女性			3	8	4	2	17							
	合計	0	0	3	15	10	3	31	職員 常勤	50.5	(千円)	5,303			

※常勤役員は1名のため個人情報保護の観点から、非公表。

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		19年度	20年度	21年度	増減(21-20)
正味財産の状況	基本財産運用益	60	60	38	△ 22
	受取会費	611	516	0	△ 516
	受取寄付金	0	0	0	0
	受託事業収益	254,611	307,304	214,871	△ 92,433
	自主事業収益	184,942	172,133	26,922	△ 145,211
	受取補助金等	20,963	9,265	5,566	△ 3,699
	雑収益	7,909	6,196	19,742	13,546
	経常収入 計	469,096	495,474	267,139	△ 228,335
	事業費	425,578	460,227	255,484	△ 204,743
	うち人件費	158,042	166,502	133,457	
	管理費	14,126	14,666	13,317	△ 1,349
	うち人件費	14,053	14,615	11,868	
	経常支出 計	439,704	474,893	268,801	
	当期経常増減額	29,392	20,581	△ 1,662	△ 22,243
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0	0
当期正味財産増減額	29,392	20,581	△ 1,662	△ 22,243	
正味財産期首残高	46,986	76,378	96,959		
正味財産期末残高	76,378	96,959	95,297	△ 1,662	

(単位:千円)

項 目		19年度	20年度	21年度	増減(21-20)
財務状況	流動資産	89,478	124,588	105,602	△ 18,986
	固定資産	15,000	15,364	15,182	△ 182
	資産 計	104,478	139,952	120,784	△ 19,168
	流動負債	28,100	42,993	25,487	△ 17,506
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	0	0	0	0
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	28,100	42,993	25,487	△ 17,506
	正味財産	76,378	96,959	95,297	△ 1,662
	うち基本財産への充当額	15,000	15,000	15,000	
うち特定資産への充当額	0	0	0		

(単位:千円)

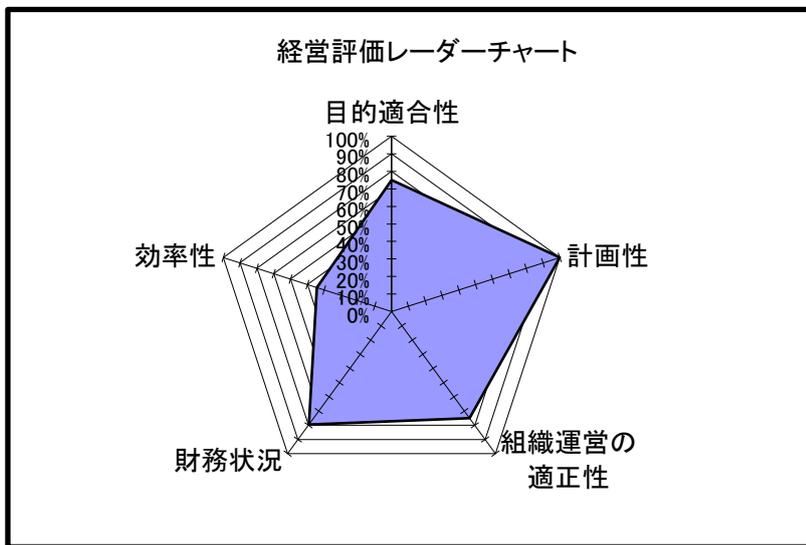
項 目		19年度	20年度	21年度	増減(21-20)
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費(派遣法)補助金	0	0	0	0
	人件費(派遣法以外)補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	5,814	3,452	3,695	243
	補助金 計	5,814	3,452	3,695	243
	人件費(派遣法)委託金	0	0	0	0
	人件費(派遣法以外)委託金	41,174	42,534	36,211	△ 6,323
	人件費以外の委託金	213,437	224,970	138,860	△ 86,110
	委託金 計	254,611	267,504	175,071	△ 92,433
	県支出金 計	260,425	270,956	178,766	△ 92,190
	県の財政的関与の割合(%)	55.5	54.7	66.9	12
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

【県の財政的関与の内容・目的・金額】

項目	内容・目的・金額
負担金	なし
補助金(運営費)	なし
補助金(事業費)	①県内の市町村、公立ホールと連携し優れた舞台芸術(演劇、寄席、オーケストラ等)を県民に提供する。地域文化施設連携事業費補助金 ②特色ある地域文化の振興など「文化力」の向上、文化芸術活動の活発化による地域の活性化を促進する。文化芸術プラン推進事業(いずれも双葉)
委託金	県民会館展示会場の管理運営、生涯学習推進の拠点施設である県生涯学習推進センターの運営。男女共同参画推進の拠点施設である県男女共同参画推進センターの管理運営
債務負担行為	指定管理委託料

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	5	20	15	75.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	5	20	20	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	4	16	12	75.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	11	44	35	79.5%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	9	36	16	44.4%
合計		34	136	98	72.1%



【警戒指標】

--

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	設立目的に適合した業務を適切に行っており良好である。
計画性	中長期計画、年次事業計画に基づいた運営をしており良好である。平成21年度からは管理運営施設の変更に伴い、より健全な協会運営をしていくため経営計画を作成した。
組織運営の適正性	平成21年3月末には組織・人事・財務等の内部管理体制を新たに整備をした。又事業報告・財務情報等は適切に公開しているので良好である。
財務状況	18年度から指定管理者となり、常に収入と支出の状況をチェックし対応している。21年度から管理施設の変更に伴い、経費を抑えながら多くの事業の開催や利用者の増加を図っているが、財務状況がより良い数値になるよう今後努力をしていく。
効率性	各施設とも職員数は必要人数での運営を行っているが、管理施設の変更に伴い一人あたりの売上高など19、20年度との比較では低評価となった。今後も収益力や施設利用率が向上するようさらに努力する。
総合的評価	新たな施設においては前年までの県直営と比較して施設利用率、利用料金収入とも増加しており、今後もより一層増加するよう努力する。各施設とも利用者に安全で利用しやすい施設づくりに努めながら運営をしていく。公益法人認定を目指し、経営体質の一層の強化を図っていく。



対応策	管理施設については、県民ニーズの的確な把握と積極的な事業展開、質の高いサービスの提供、また、経費削減のさらなる努力などにより、より評価の高い施設運営を行っていく。また、引き続き定期的に差異分析を行う中で経営課題を掘り起こし、その見直しを常時行うことにより健全経営に努めていく。
-----	--

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	双葉ふれあい文化館、生涯学習推進センター、男女共同参画推進センターの管理運営を受託し、県民の自発的な芸術文化、生涯学習活動を支援する事業を実施している。
計画性	中長期計画に基づいた経営がなされているが、決算状況を勘案し、随時計画を見直していくことが望ましい。
組織運営の適正性	H21年度より協会の経営形態が大幅に変わったことから、職員配置や職員給与の見直しを行った。厳しい経営環境にはあるが、職員の職務への動機付けに留意し、職員の自主性・創造性を引き出す努力をする必要がある。
財務状況	H21年度からの経営状況の変化に対応し、堅実な協会運営へ向けて、あらゆる努力がなされていることは認められる。今後は、その取り組みをさらに進めるとともに、積極的な事業展開を図っていく必要がある。
効率性	人件費の抑制、事業経費の削減、事業収入の増加に取り組んでいるが、引き続き経営基盤の強化を図る必要がある。
総合的評価	H21年度からの厳しい経営環境の変化に対しては、経営計画を策定し、堅実な協会運営に努めている。H22年度は指定管理を受託している双葉ふれあい文化館の更新時期となることから、指定管理を受託できるように取り組む必要がある。また、公益法人改革に対しては、法人の長期的な方向性を定めたくえで対応していく必要がある。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営評価アドバイザーによる総合評価)

今後更なる改善、見直しを行うべき視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">目的適合性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">計画性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">組織運営の適正性</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">財務状況</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">効率性</div> </div>
総合的所見	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">A (75%~)</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">B (60%~75%)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">C (50%~60%)</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;">D (~50%)</div> </div> <p>・平成21年度より県民文化ホールの指定管理者から外れ、収入の大きな柱を失い、また、新公益法人会計の適用による賞与引当金の計上を初めて行ったことから費用が増加し、当期損益では赤字を計上した。</p> <p>※ ランク下の%は得点率の範囲</p> <p>・今期の赤字は、大幅なプロパー職員の削減など堅実な経営に向けた努力により、経営上大きな影響を与えることはないが、さらなる経費の抑制や収入増加の工夫を行い、財務状況の改善に努力する必要がある。</p> <p>・新公益法人制度への移行については、移行する法人の種類を早期に決定し、移行に向けた準備を進めることが必要である。</p>



【総合所見等に対する今後の対応方針】

今後もさらなる経費の抑制や収入の増加に努め財務状況を改善するよう努力していく。新公益法人制度の移行については、公益財団法人の認定に向け移行作業計画をたて、私学文書課のアドバイスを受けながら進めているところである。